

フィンランドから、ようこそ東川へ



カンガサラ市長(左)らが東川中の授業を参観(5月22日)

フィンランド教育の長所を東川の教育にもと5年前から情報交流を始め

東川町から2度の訪問を重ねてきたフィンランドカンガサラ市から、オスカリ・オービネン市長、リーナ・パユコスキ教育長、ピッコラ中学校サイヤ・アータマ副校長と生徒8人ら13人が来町。5月21日から同月27日まで6泊7日の滞在で交流を深めました。

オービネン市長以下、訪問団一行ほとんどが初めての来町。22日、ホームステイ先の生徒と一緒にさっそく中学校へ登校し、イベリーナ・タイミさん(15)は「今、東川にいられることが

とてもうれしい。ホストファミリーの皆さんにとっても感謝しています。お世話になる皆さんと長く友だちになれることを願っています」と挨拶しました。この日さっそく授業も体験しました。日本語の授業ももちろん初の体験ばかりでしたが、「フィンランドではポケモンが人気で、テレビで日本語をよく聞いているので、そんなに変な感じはしない」と違和感は感じなかったよう。滞在期間中、生徒8人は東川中の生徒の家庭にホームステイしながら剣道書道、琴、茶道、アイヌ文化など日本文化もいっぱい体験し、また残雪が残る旭岳、旭岳温泉、旭山動物園も見学しました。

ビルマの竖琴朗読劇

5月13日、農村環境改善センターで町、町教委主催の朗読劇『合唱による和解〜ビルマの竖琴』を公演しました。

第二次世界大戦のビルマの戦場(現ミャンマー)を舞台にした終戦前後の旧日本兵の物語。評論家、文学者、小説家の故竹山道雄が書いた児童向け作品「ビルマの竖琴」を原作にエッセイ

東ア交流促進協、交流促進さのり進展へ



短期研修14カ国353人、留学生5カ国36人、旭川福祉専門学校7カ国81人を数えました。松岡町長は「定住人口、移住人口、応援人口という3つの人口でまちの活性化を図りたい。東アジアの人々と交流を進めていく時代になってほしい」との考え方を示しました。

5月17日、役場大会議室で東川町東アジア地域交流促進協議会(会長・松岡市郎町長)の本年度総会を開きました。関係団体、事業所代表、ラトビア、タイ、ウズベキスタン、ベトナム、インドネシア、韓国、中国7カ国の町国際交流員ら35人が出席しました。

町と東アジア地域との連携を促進するための中核となっている日本語学研修、留学生の受け入れは、旭川福祉専門学校と町立東川日本語学校が担っています。前年度は町立日本語学校の



スト、星様大学教授の伊藤藤三郎氏(鎌倉市在住)が演出・脚本した作品。音楽プロデューサーの松崎正明氏(大阪市在住)が来町して舞台監督しました。

さん(東京藝術大学声楽科卒)、ピアノの倉本洋子さん(国立音楽大学器楽科卒)に、東川中学校吹奏楽部29人がコーラスに加わりました。ビルマ僧になった主人公が竖琴をかき鳴らす場面、出家したくたりを説明した場面では、目頭を押さえる観客の姿も。

NTTが写真甲子園作品をタウンページに採用



それぞれその地域から応募した高校写真部の作品を採用しています。7エリア合計で発行部数は延べ62万4千部。

写真甲子園の初戦応募作品がNTT電話帳・タウンページの表紙写真として採用されました。今年4月から道北各エリアの最新版としてすでに上川、空知、留萌、宗谷、北見、網走・紋別、釧路・根室地方の家庭、事業所に配布が始まり、写真甲子園がさらに身近に感じてもらえるようになりました。

写真甲子園とNTTタウンページのコラボレーションは初めて。4月27日NTTタウンページ(株)北海道営業本部の西村和己部長らが来庁し、松岡市郎町長にその完成版を寄贈しました。旭川市版の表紙を飾っているのは旭川実業高校と旭川工業高等専門学校、旭川市・上川・北空知地方版は旭川実業高校と富良野緑峰高校、空知地方版は岩見沢高等養護学校と岩見沢西高校、北見・網走・紋別地方版は紋別高校、釧路・根室地方版は釧路工業高校、宗谷地方版は稚内高校と旭川明成高校、留萌地方版は留萌高校と羽幌高校の作品を採用しています。

クロカンスキーの石田正子さんが講演



「こうしたらもっと速く、強くなれる気がするが、強くなれる気づきがあるから続けていられる」とモチベーションの大切さを強調。「頑張っていけば何をやっても強くなれる。強くなれば世界が広がっていくって、もともと強い人に会える。できない経験はいつぱいできるようなる」と人生を豊かにする努力と経験の大切さを話しました。

5月14日、美幌町出身のクロカンスカントリースキー選手、石田正子さん(36)がJR北海道IIが文化ギャラリーでトークショーを開きました。2014年ロシア・ソチ五輪女子スキースロイン出場、2017韓国・ピョンチャン五輪女子15リフト複合で日本人初の表彰台(3位)などW杯大会で数々の出場、入賞を果たし、さらに来年の韓国・ピョンチャン五輪大会出場を目指しています。

神饌田、初夏の陽気で田植え

5月19日、東2号北1、三田常男さん(70)方の北海道神宮神饌田(しんせんでん)で御田植え祭を迎えました。昨年より13日遅い田植え。午後2時半、気温は27.2度まで上がって早夏の訪れを感じさせる快晴の田植え日和でした。伊澤正裕権宮司の豊作祈願に続いて長男の和幸さん(40)が今年の豊作を願って鍬入れし、12人の早乙



9月上旬に稲刈りを迎え、新米約10俵(1俵は60kg)を奉納します。町内ではすでに14日前後から早場米として生産する稲の田植えがスタートし、一般の田植えは20、21の両日が最盛期で、平年並みの順調な出だし。